

講義レジュメ

内容・テーマ	講 師 <u>市橋芳則</u>
<u>地域課題解決に向けた事業の展開</u>	期 日 <u>12月12日(木)</u>

「高齢社会における博物館—回想法を活用したミュージアムの役割」

北名古屋市歴史民俗資料館は、主に昭和30年代を中心とした暮らしが劇的に変化した時代を扱っている。昭和時代というコレクションを構築し、展示していくことで来館者、特に地域住民（高齢者）との関わりが深まり、福祉との連携を経て「博福連携」という新たな生涯学習の機会を創出した。博物館の資料である過去のモノが、懐かしさというチカラを発揮し、来館者に感動や感傷を提供し、言葉を発しての交流を促すミュージアム、それが昭和時代の暮らしに特化した「昭和日常博物館」である。

北名古屋市が取り入れている「回想法」とは、懐かしい写真や生活用具などを用いて思い出、記憶を語り合うことにより脳を活性化し、心身を元気にする心理・社会的アプローチである。

回想法は1960年代に欧米諸国から始まり、研究が進んできた。わが国でも病院や介護保険施設を中心に、認知症の非薬物療法の一つとして、ケアのツールとして実践されてきたが、地域ケアとしての取り組みは、例がなく、そこで、国のモデル事業として、当館と収蔵資料及び明治時代の旧家である国登録有形文化財「旧加藤家住宅」を活用し、福祉と教育と医療関係者が連携しながら回想法を用いた地域高齢者ケアを行っていくスタイルが考案、確立され、2002年には旧加藤家住宅内に「回想法センター」が開所した。

現在、回想法は、地域に暮らす高齢者を元気にしていくプロジェクトとして活用されている。博物館と高齢者ケア・認知症予防を推進する福祉関係の部局とが連携を図った「思い出ふれあい（回想法）事業」を実践している。これを「博福連携」と名付け、活動の軸の一つとしている。高齢者が思い出を語り合う「回想法スクール」に始まり、参加した方々は「いきいき隊」として活動を継続することで健康を維持、さらに、子どもたちと世代間交流を図っている。本館では、「いきいき隊」のメンバーがミュージアム・エドゥケーターとしての役割を担う機会を「世代間交流ワークショップ」というスタイルで提供している。

回想法は、介護予防・認知症予防から健康づくりへ、そして生涯学習へと大きく広がっている。ときをつなぐ回想法が、人の絆を育み、その活動の広がりが地域の絆を育み、ネットワークを広げ、地域に潜在する地域住民の主体的力（エンパワメント）を引き出し高めることにつながっていく、これが健康快適都市を目指す北名古屋市モデル「地域回想法」である。